

教育というフィールドに 旋風を吹かせ続ける

森山真有

トライグループ専務取締役

「その案件は、他社ではできない新しいものか？」
これは、森山真有氏が毎日のように繰り返す言葉。
全国津々浦々に家庭教師ネットワークを張り巡らせ、
自治体や公立校と組んで、教育格差の解消に取り組む。
そして今春、これまで存在しない「高等学院」を立ち上げた。

Photo: 川岸徹 / Photographer: 福森クニヒロ、桐本マチコ、大高和康



全国各地を駆け巡り、教育プランナーとして活動することもある森山真有氏。「私が育った町も、こんな雰囲気の家。でも、どんな家でも家庭教師を派遣します。不可能を可能にする、がテーマですから」。

京 都府亀岡市のはずれ——。自然豊かな山間の地に、のどかな田園地帯が広がっている。春の新緑、秋の紅葉のシーズンはもちろん、冬の雪景色も格別に美しい。都会の喧騒をすっかり忘れてさせてくれる環境は今の時代に最高の贅沢といえるが、この地で暮らす人にとっては悩みもある。瀬上志帆さん、有彩さん姉妹。姉の志帆さんは中学3年生で、妹の有彩さんは中学1年生。高校

大学受験が現実味を帯びてくる頃で、友達の間でも進路に関する会話が增えた。「私が住んでいる場所は、はつきり言って『田舎』。路線バスは1日に3便しかなく、それに乗っても最寄りの駅まで40分は軽いかかってしまう。学校では塾に通っている友達が増えてきたが、私にはムリ。塾に往復する時間がとれないし、親の送り迎えだって必要。そこで家庭教師をお願いしたいと

思いました」と志帆さんは話す。

しかし、こうしたケースに家庭教師を見つけることはできるのか。志帆さんが塾へ通えないように、家庭教師が生徒の家を往復するのにかかるの労力のはずだ。志帆さんは叔父にあたるトライグループ専務・森山真有氏に相談。答えは「OK」だった。

「親族だからといって、特別な便宜を図ったわけではありません。トライであれば、家庭教師の派遣は一部の離島を除き、日本全国どこでも可能。現在トライには約10万人の大学生が家庭教師として登録し、さらにプロとして活動する社会人の家庭教師もいる。そんな大規模なネットワークを持つトライだから、きめ細かな対応が取れるのです」と森山氏。

彼は言葉が続く。「現状の日本には、地域や親の所得によって子供の教育に格差が生まれるという問題点が確かにある。だが、住んでいる場所や親の収入は子供には責任のない話。そうした格差の解消こそ、トライが最も力を入れて実践していることです」。

志帆さんは中学2年の半ばからトライの家庭教師に来てもらっている。姉が勉強に打ち込む姿を見て、ほどなく妹の有彩さんもトライに家庭教師をお願いした。そんな家庭教師のトライには、



現在、志帆さん(写真中央)と有彩さん(右)を指導する家庭教師、前川直寛氏。京都市内から1時間かけて通っている。

独自のシステムがある。教育プランナーの存在だ。「家庭教師の依頼があると、まずはそのお宅へ教育プランナーがうかがいます。勉強の目標、予算、日程などを相談し、さらには子供の性格診断も行う。それから子供に適したオーダーメイドカリキュラムを組み、どの先生を派遣するかを決定していきます」と森山氏。

以前の志帆さんは、数学と理科を苦手感じていた。そこでトライでは京都市に住む工学部出身の先生を選んだ。先生は車で片道1時間をかけて瀬上家へ通い、志帆さんの弱点の克服を目指した。「教え方がわかりやすく、質問もしやすい。ひとつずつ疑問を解決していきます。今では理数が得意教科になりました。そのぶん、得意だった文系の科目が心配……(笑)。将来は東京に出て、一橋大学へ行

き、アナウンサーになるのが夢です」と志帆さん。一方、妹の有彩さんは「私は理科、数学、英語を教えてもらっています。テストの成績が上がって、勉強が楽しくなりました」。頼もしいふたりの言葉から、地域格差の解消にかけるトライの熱意が、垣間見える。

学校でもトライの指導を 「おおさか・まなび舎事業

これまで82万人の子供を指導してきた実績から「トライII家庭教師」というイメージが確立している。だが、自宅で教える家庭教師だけがトライの姿ではない。教育の現場から格差をなくすため、家庭教師の枠を飛び越えた活動を積極的に行っている。

その一例が「おおさか・まなび舎事業」への参加だ。この事業は、全国学力テストの成績低迷を受けて橋下徹大阪府知事が打ち出した「大阪維新プログラム」の施策のひとつ。放課後や休日に補充授業を実施し、子供たちの勉強に向かう意識を高めようというのが大きな狙いだ。

トライでは大阪府内の小学校20校に学習支援アドバイザーを派遣。トライの教材を使いながら、子供たちの宿題や自習の支援を実施している。森山氏は言う。「正直言って、こ